

# 進路ニュース **みらい** 68号

広島市立広島特別支援学校 校長 中尾 秀行  
(発行 進路指導部 広報係)

## 中学部第3学年 ～高等部第1学年の作業見学～

中学部第3学年は、12月2日(金)に高等部第1学年の作業学習を見学しました。中学部卒業後の進路について考え、高等部の生活について知るとともに、入学後の期待感を高めることをねらいとしています。実際に作業を体験させてもらい、先輩方の真剣に取り組む姿に感激しました。見学後は、各学級で作業見学における新聞作りに取り組みました。今後は、高等部第1学年の先輩へのインタビューや高等部入学選考に向けての面接練習などの学習に取り組んでいく予定です。



## 2学期の進路学習 ～高等部第1学年～

10月18日(火)にⅡ・Ⅲ類型は、企業またはA型事業所へ「職場見学」を行いました。Ⅱ類型は日本基準寝具株式会社廿日市工場でクリーニング作業を見学しました。Ⅲ類型はエフピコ愛パック株式会社広島工場での食品トレー容器の生産と、宇品郵便局でのビルメンテナンス作業を見学しました。事前学習で学んだマナーを守り、仕事内容や働いている方に興味をもって見学することができました。職場の方の話を聞いて、気になったことを質問するなど、有意義な職場見学になりました。生徒からは「体力がいると思った。」「集中して仕事をしていた。」等の気付きや感想が出ており、仕事の厳しさについても感じたようです。事後学習では「働くために必要な力」について交流し、学校生活で身に付けるべき力を考えることができました。

重複・Ⅰ類型は、「仕事を体験しよう」の学習を行いました。学校で缶つぶし、ねじの組立て、折鶴解体の仕事を体験しました。「手順どおりに行う」、「一定時間集中して取り組む」等、仕事を意識して作業を行いました。この仕事体験を通して、生徒が自分の適性や仕事をするために必

要な力について考える良い機会となりました。

3学期は、1月に「校内実習」を行います。五つの作業グループに分かれて、5日間「仕事」を意識して作業を行います。保護者見学も予定していますので、集中して仕事に取り組む姿を御覧いただきたいと思います。校内実習を通して付けた力を2年生で行う職場体験実習につなげていきたいと考えています。

「保護者対象職場見学」では、多くの保護者の方に御参加いただいています。この見学を通して卒業後の生活についてイメージをもつことで、進路選択に役立てていただけると嬉しいです。

## **職場体験実習報告会 ～高等部第2学年～**

高等部第2学年で経験する初めての職場体験実習も、残すところ3学期のみとなりました。96名の生徒全員が各行事や学習の合間を縫っての実施となり、実習先の都合もあり、1学期から3学期までの長期間にわたって行われます。

日頃は一緒に学習活動を行う友達が、実習期間中は登校しません。「今週は△△君が実習、来週は△△さんが実習・・・」というように、生徒たちは学校以外で友達が仕事をしたり、活動をしたりしているのだということを実感しています。

自分が職場体験をするということも大切ですが、友達の体験について知るということもお互いにとってとても重要です。友達の仕事内容や頑張っている姿を見たり、お互いの頑張りを認め合ったりすることがやる気や自信につながり、卒業後の生活や進路について考えようとする意識が高まっていきます。

生徒たちの職場体験実習の報告会は、3年生に向けて進路の取組を進める上でも大事な学習となっています。

## **卒業後の生活に向けて ～高等部第3学年～**

10月27日に広島市健康福祉局障害福祉部自立支援課の方に来ていただき、卒業後に利用する施設（障害福祉サービス事業所）の申請の手続き等についての研修会を行いました。また、サービス等利用計画書の作成についても説明していただきました。お忙しい中、多数御参加いただきありがとうございました。

「生活介護」「就労継続支援B型」「自立訓練」「就労移行支援」の施設・作業所を利用希望の方は、12月1日から14日までに居住区の保健福祉課で申請をしていただいていると思います。利用希望者数が受け入れ枠を上回っている場合は、抽選をしていただくこととなります。抽選は1月下旬の予定で、対象の家庭には1月中旬には案内が届くことになっています。

また、福祉サービスを利用する際にはサービス等利用計画が必要となります。どこの事業所に作成してもらうか決めておられますか？セルフプランの方もおられると思いますが、計画案を提出されないとサービス利用が受けられませんので御注意ください。

3学期には、「卒業生から学ぶ」と「余暇活動の体験」、「同窓会について」の進路学習を行います。「卒業生から学ぶ」では、本校の卒業生を招き、職場での様子やお金の遣い方、働く上で心掛けていることなどをお聞きし、卒業後の生活について考える学習を行います。また、「余暇活動の体験」では、広島市心身障害者福祉センターでスポーツ体験を行う予定です。

いよいよ卒業まで残すところ3か月足らずとなりました。御家庭でも卒業後の生活を見据えた話を冬休みの間にじっくりとしていただけたらと思います。

## 働く力を高めるために ～職業コース～

職業コースでは、広島県特別支援学校技能検定5分野11種目全ての受検を全員が行います。求人する企業が多種多様化する中で、業種によって求められる力が違ってきます。学習内容として取り組み始めて4年になりますが、技能検定に向けて学ぶ中で身に付けた知識や技能が自分の進路を決定する上で大きな効果になっていると実感しています。



食品加工技能検定〈流しの洗浄〉

どの職場でも清掃は必ずあります。自在ぼうき、ダスタークロスモップ、水モップの技術は、実習のときに「お願いします。」と指示されても、ちゅうちょすることなく、自信をもって取り組むことができます。食品製造・販売関係では、手洗いの基本が定着していることに驚かれます。これは、流通・物流技能検定や食品加工技能検定での手洗い・消毒の基礎技術の習得から身に付いたものと言えます。接客技能検定で求められている力は、接客技術にとどまることなく挨拶や店内での対応マニュアルを理解することにも役立っています。



接客技能検定〈お水のサービス〉

1年生で4分野8種目を受検し、たくさんの力を付けることができました。2年生になって反復練習を行いながら新たに清掃技能検定でスクイージー、食品加工技能検定の2種目を加えています。様々な内容を身に付けることで、自分に適した職業選択をする力も付くようです。

## 働くうえで大切なこと ～就職支援教員（JST）より～

今年度からJST2名で、高等部の皆さんの就労支援を担当しています。現在、高等部第3学年の就職志望者のほとんどは職場実習を終え、順調に内定をもらう生徒も増えてきています。また、高等部第2学年については2回目の、高等部第1学年職業コースについては初めての企業実習も順次実施しています。

働く上で大切なことは、

- ① 働く意欲が強いこと
- ② 社会人としての基本的なマナーが身に付いていること
- ③ 体力があること
- ④ 指示されたとおりにきちんと仕事ができること
- ⑤ 公共交通機関が利用できること などです。

特に社会人としてのマナーは、挨拶をすることや人を思いやる気持ちをもつこと、時間・約束を守ること、礼儀正しい態度で接すること、規則正しい生活を心掛けること、身の回りを清潔にしていることなどであり、就労が日常生活の延長上にあることを意識し、日々の生活を心掛けて送るようにしてほしいと思います。

保護者の皆様は生徒にとって最も身近な存在であり、卒業後の生活を見守る支援者です。保護者の皆様の思いや願いを踏まえ、それぞれの生徒の社会自立に向けて、取り組んでいきたいと思えます。

御協力のほどよろしくお願いいたします。

## 卒業一年目の生徒の様子 ～アフターケアより～

本校では卒業後3年間、生徒の進路先や家庭に連絡をして卒業生の様子を伺っています。卒業後一年目は卒業時の担任が中心となり、春と冬に各家庭へ電話連絡を行います。また、夏季休業中には進路先を訪問して、卒業生が働いている様子を見せていただいたり、職場の方からそれぞれの状況を教えていただいたりしています。

今年3月に卒業した第21期生94名についても、全員の様子を確認しました。始めは新たな環境に戸惑いを感じながらも、卒業生の多くが進路先の環境に慣れ、利用者の方たちと協力しながら仕事に励み、楽しく生活を送っている様子が伺えました。その一方、学校時代とは違う環境や長時間の仕事などで体調を崩すなどのケースもありましたが、旧担任が相談機関と連携をしながら取組を行っています。今後も進路先や家庭と連携を図り、引き続きアフターケアを行っていきます。

